

第5章 基本的な方向性

5.1 課題整理

5.1.1 都市構造上の課題

前頁までの結果を踏まえ、本市の課題を整理します。

	<ul style="list-style-type: none">● DID● 2015
	<ul style="list-style-type: none">●●●
	<ul style="list-style-type: none">●●●
	<ul style="list-style-type: none">●
	<ul style="list-style-type: none">●

	<ul style="list-style-type: none">•
	<ul style="list-style-type: none">•
	<ul style="list-style-type: none">•• 10•

5.1.2 立地適正化計画で対応する基本的課題

5.1.2.1 都市の現況・都市構造の評価

本市の2040年の将来推計人口は約2.3万人となり、2015年の約2.9万人から約24%の減少が見込まれています。また、世代別の人口割合については、老年人口の割合が約29.2%（2015年）から約36.4%（2040年）と約7%増加すると予想されるのに対して、生産年齢人口及び年少人口の割合は減少し、少子高齢化傾向の更なる進展が見込まれます。

都市構造の評価として、各生活サービス施設の立地状況や公共交通の利便性等を分析した結果、主に用途地域内の広い範囲に施設が立地しており、人口カバー率は比較的高くなっています。一方で基幹的公共交通や各生活サービス施設の徒歩圏に含まれる人口密度については、全国と比べ、低い状況にあります。

また、近年でも用途地域外における住宅の開発は一定程度あり、自動車中心の生活を前提とした世帯が中心部から離れたところに広い土地を求める傾向も見受けられ、将来懸念される影響として、人口分布が広範囲に分散することで人口密度が低下し、生活サービス施設の維持が困難となり、施設の撤退・減少が考えられます。このほかにも、人口減少・少子高齢化による、空き家や低未利用地の増加、公共施設や道路、公園等の維持のための行政コストの増加が懸念されます。

加えて、高齢化の進行により自動車中心の生活が困難となり、公共交通の必要性がさらに高まることが予測されます。

5.1.2.2 基本的課題

本市の上位・関連計画におけるまちづくりの方向性を見据え、都市の現況と都市構造上の課題から、将来的に懸念される課題を整理します。

5.2 コンパクトなまちづくりへ向けた基本方針

5.2.1 まちづくりの方針

前記までに整理した課題の解決に向けて、本計画におけるまちづくりの方針を以下のとおり定めます。



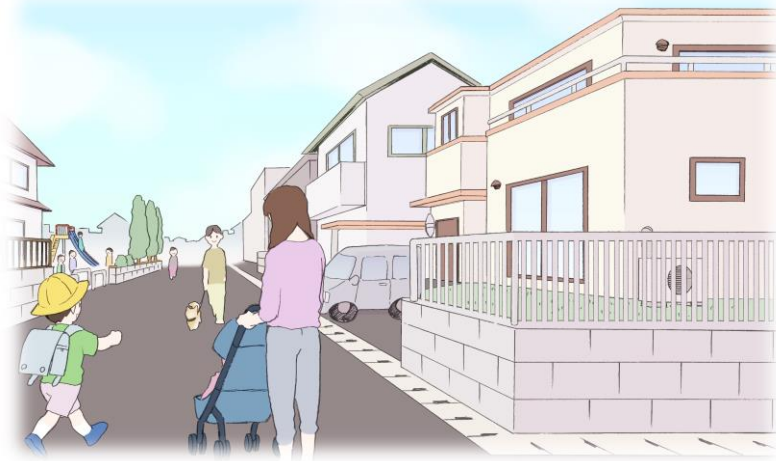
<将来都市像>

<基本方針>

本市の都市機能は、肥前鹿島駅から中心市街地、市役所周辺に集積しており、また、肥前浜宿では、歴史的な町並みが形成されています。今後、コンパクトな都市づくりに向けては、これらの交通結節点周辺や公共公益施設が集積する範囲、観光・交流を中心とする範囲を拠点地域（中心拠点、地域拠点）として位置付け、生活サービス施設などの都市機能の維持・充実を図るとともに、風情ある歴史的町並みを活用しつつ、生活と観光が両立するまちづくりを目指していきます。



今後、人口減少が進む中で、生活サービス施設などの都市機能を維持し続けるためには、拠点地域の周辺の人口密度を保つ必要があります。そのため、本計画で居住誘導を図る範囲は、用途地域が指定されている長崎本線から国道207号バイパスに囲まれた範囲を基本とし、新たな居住地拡大を抑制しながら、既成市街地での定住促進、地域コミュニティの促進を目指していきます。また、安全・安心した生活ができるよう、居住誘導と合わせ、災害対策についても推進します。



高齢化等が進行する本市においては、徒歩や公共交通により暮らし続けられるまちを目指すことが必要です。そのため、鹿島市地域公共交通網形成計画と連携し、拠点間及び拠点までの公共交通によるアクセスが保てるよう、公共交通の充実、利便性の向上を図ります。

特に、今後は、九州新幹線西九州ルートの開業により、肥前鹿島駅での特急減便等が予定されていることから、市民生活をはじめ市内外の広域交流の促進に向けても検討を推進します。



5.2.2 都市の骨格構造

本市の骨格構造は、「鹿島市都市計画マスタープラン」の将来都市構造で示される「エリア」、「拠点」、「都市軸」を基本的な考え方とし、交通結節点となる「肥前鹿島駅周辺」及び公共公益施設が集積する「市役所周辺」を本計画における「中心拠点」とし、南側の交通結節点である「肥前浜駅」を本計画における「地域拠点」として位置付けます。これまで整備してきた市街地や、歴史文化など様々な資源がある古くからの市街地の魅力・賑わいの創出を図るとともに、既存の公共交通ネットワークを活用し、本市全体の生活利便性、地域コミュニティの維持・向上を図ります。



図 5 将来都市構造

資料：鹿島市都市計画マスタープラン